

「ありがとうございます」と「すみません」

松浦 俊博

普段、家族や友人、近所の人などと交わす会話は特に意味のあることだけをやり取りしているわけではない。

近所の人との会話は「こんにちは」、「朝早くから散歩ですか」、「気持ちいい天気ですね」、「今日からガス管の工事ですね」などの挨拶であり、親しい関係が続ける意思表示のようなものである。

家族との会話では挨拶のような会話は相当省略される。そのかわり、いつも近くで相手の様子を見て声の大きさや張りを聞き取り、「具合が悪くないか」、「機嫌は良いか」、「何か変わったことはないか」などを感じて会話に反映する。とは言っても「お茶飲む?」、「寒くない?」など簡単な言葉にしかならないが。

家族との会話も含めて、会話に最低限必要な言葉は「ありがとうございます」と「すみません」だと思う。簡単なことにみえるが、これらの言葉をほとんど使わない人もいる。よく、「『ありがとうございます』の一言があってもいいじゃないか」というセリフを耳にすることがある。やはり、使わない人がいるのだろう。私も過去にそのような人と接したことがあったが、「この人はどういう育ちをしたのだろう」と考えてしまった。

これらの言葉は、人間関係の潤滑油の作用があり、相手への気遣いが増すし、多少踏み込んで何かしてあげる気になるものだ。逆に、これらの言葉がないと、気遣いは不要で、何かしてあげる必要もないということになる。

私の子供たちは、これらの言葉をよく使うし、特に娘は使いすぎるくらいだ。ただ、息子の妻はカナダ人のせいかあまり使わなく、時々「オヤオヤ」と感じることもある。コモンセンスの違いによるかもしれない。一方で、カナダ人たちは別の表現もある。「大丈夫?」とか「幸運を」とか「ありがとうございます」の意味で「God bless you」と言うし、「本当によく来てくれた」の意味で「Thank God you came」とも言う。何事にも「God」が出現するのは彼らの言葉の特徴なのかもしれない。

国内では、関西のほうが関東よりこれらの言葉をよく使っていたように感じる。土地柄の影響があるのだろう。